研修便り

高知市教育研究所教職員研修班
令和２年12月15日発行　No.145

「研修便り」は，高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有，教育研究所から発信する情報の周知を目的として，発行していきます。

平成30年・令和元年・２年度　高知市研究協力校（人権教育）研究発表会　　令和２年10月21日（水）実施

「学校行事や授業等を通して，認め合い，支え合い，高め合える生徒の育成
～通常の学級における特別な支援に関する教育の推進～」

高知市立三里中学校

研究内容

① あたたかな人間関係づくり
② 授業改善・家庭学習の充実
③ 委員会活動・係活動の充実

取組の内容

高め合い
学校行事

認め合い
特別支援教育

支え合い
授業づくり

≪「チーム会」の設置≫
- 認め合いチーム
- 支え合いチーム
- 高め合いチーム

102名の参加者を得て開催しました。

≪生徒の変容を見取る≫
- あったかアンケートの分析

≪授業のユニバーサルデザイン≫
- 学習指導案に，１stステージ支援（学級での支援）・２ndステージ支援（個別の支援）の記載，工夫Ⅰ～Ⅴ（Ⅰ：環境の工夫　Ⅱ：情報提示の工夫　Ⅲ：活動内容の工夫　Ⅳ：教材・教具の工夫　Ⅴ：評価の工夫）の記載，予想されるつまずきの記載
- 「個別の指導計画　目標・手立てチェック表」
- 「通常の学級における特別支援三つのキーワード」のチェックシート

講演「通常の学級における認め合い，支え合い，高め合い」
講師：高知大学教職大学院　総合人間自然科学研究科　是永　かな子　教授

認め合い：特別支援教育
支え合い：授業づくり
高め合い：学校行事

⇨ インクルーシブ教育（多様性を認めて共に学ぶ教育）の実現

⇨ 学級で安心して過ごすことができる子どもたちが増えていく

学級の中の子どもたちは，多様であると考えていくことが大切

多様性を隔離するのではなく，認めて共生する社会

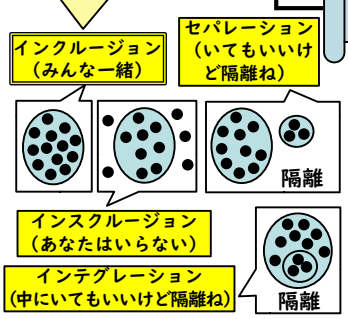
認

≪指導と支援のバランス≫
支援はするけれど，子どもの成長に従って少しずつ減らす

≪インクルーシブ教育≫
いろいろな子どもがいて，みんなで理解し合おうとする状態をつくることが必要

支
- 子どもの「分からない」を大事にする授業
- 子ども同士をつなぐ授業
- 机間指導を積極的に行い，個別支援する授業

高
子どもたちを「関わり合わせる」ことが求められている



【参加者の感想から】
- インクルーシブ教育の視点からどんな支援をしていくかの系統性があり，学校全体で共有し，今まで積み重ねてきたことが成果として出てきていました。
- どのクラスの子どもたちも落ち着いた雰囲気の中で授業している様子が見られました。授業の導入部分で，ゴールと本時の流れを示すことを，全教職員で統一して取り組んでいることが，すばらしいと思いました。全員が取り組んでいると他教科や次の学年になっても同じ授業の進め方で子どもが活動しやすいと感じました。

高知市教育研究所研究員　全体実践発表（公開授業）

令和２年10月29日（木）実施

目的　研究員全員で，授業を参観して気付いたことを整理し，明確になった成果や課題を共有することで，それぞれの今後の研究の深化につなげる。

高知市立一宮小学校６年２組　濵田　悠　研究員

教　科：　国語科（プログラミング教育）
単元名：　コロナ禍の今だからこそ伝えたいこと
　　－世界の人が「なるほど」という意見文を書くにはー
教材名：　世界に目を向けて意見文を書こう（東京書籍）

研究主題：　フローチャートを活用したプログラミング的思考の深化を目指した授業実践と検証
研究仮説：　フローチャートを活用した授業において，具体的な項目を設定し，数値や根拠をもって評価する方法が確立されれば，プログラミング的思考の深まりを測ることができるのではないか。

【公開授業の様子】濵田研究員は，パソコン等を使わない「アンプラグド」でのプログラミング教育について研究している。公開授業（４／７時間目）では，これまでに得た知識（文章構成など）を振り返り，読み手を納得させられる意見文を書くための手順についてフローチャートを作る場面を設定した。授業では，読み手を納得させられる意見文を書くというゴールまでの道筋を考えることで，既習の知識を順序立て「使える知識」へと再構築する子どもたちの姿が見られた。

導入

これまでの学習を振り返り，意見文を書くためのキーワード（文章構成，文末表現，文章の工夫など）をおさえた。そして，本時の課題「読み手を納得させる意見文はどのように書けばよいのか」をフローチャートを使って考えることを確認した。

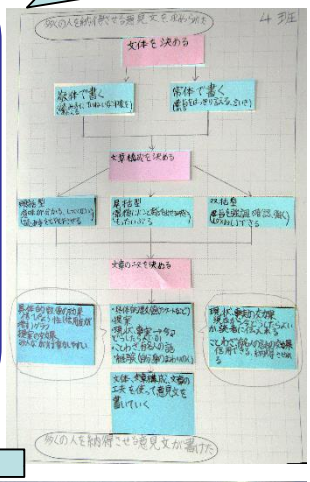
展開

① グループで対話をしながら，班で付箋に書いていき，フローチャートを作っていった。前時までに学んだキーワードが児童の口から次々に出てきた。

② 自分たちが作ったフローチャートに，グループで話し合いながら，評価をつけていった。「これは書けている」「ここはちょっと…」と，評価カードを使いながら，数値で評価を付けた。

③ 電子黒板で，自分たちのフローチャートを見せながら評価を付けた理由を発表した。その後，他の班からもアドバイスをもらい再度推敲してフローチャートを完成させた。

グループで作ったフローチャート



終末

終末では，読み手を納得させる意見文とはどのようなものかを振り返った。児童から「まず要旨を書いて，それから文章構成や工夫を考えていけば，多くの人を納得させられる文章が書けると思った」という意見が出ていた。児童は，フローチャートを使うことで，意見文を書くために大切なことは何かということに気付くことができた。

本時の板書

研究協議から

【自己の学び・研究につなげたいこと】

・「目的への過程を考えるに当たっては，順序立てて考えることが有効である」ことが再認識できた。フローチャートを使うと整理しやすく，またいろいろな方向性を考えることができるため，自他にとって理解しやすくなる。

・物事を整理して考える力は，今後の社会の中で必要になるのでフローチャートを活用していくことは有効だと思った。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所　教職員研修班までお寄せください。